

はじめに

- A. 旧柿生村の特徴
- ①鶴見川中流域 多摩川の支流と細い尾根で接する
 - ②郡境 都筑郡・橋樹郡・多摩郡の境
 - ③川崎市・横浜市・町田市・多摩市・稲城市の境
 - ④鎌倉街道「上の道」と「中の道」の中間に位置する
早の道・尊氏道

B. 旧柿生村付近の史跡 歴史文化財の宝庫

- ①麻生郷という地名・・・中世以来の地名 → 2 付近
- ②スリコパチという字名・・・小沢原へつながる → 2 0
- ③岡上 文永 年銘板碑・・・緑泥片岩 → 8
- ④早野上原 瀬戸四耳壺・・・ → 3
- ⑤能ヶ谷の中世銭 → 1 1
- ⑥三輪沢山城の焼き米 → 6
- ⑦王禅寺・東光院・・・印融等の真言僧 → 1・7
- ⑧弘法の松という地名・・・ → 1
- ⑨真光寺という地名・・・寺院中世以来の地名 → 2 1
万福寺・寺家 → 4・2 0
- ⑩片平の修廣寺・・・
- ⑪岡上など各地に残る鎌倉道伝承など

これらの素材を使って中世の道について考えることが本講座の目的

C. 鎌倉道とは、鎌倉道の研究と方法について

* 鎌倉道とは 鎌倉に通じる道

: 鎌倉街道「上の道」鎌倉～武蔵府中～笛吹峠～上野国方面へ・・・古代の官道

地図では A 1 関戸～A 2 霞ヶ関～A 4 貝取～A 5 小野路～A 6 七国山～A 7 宏善寺～A 8 井出の沢古戦場跡→鎌倉

元弘三年(1333)新田義貞の鎌倉攻めに使われた道、その後中先代の乱、武蔵野合戦、上杉禅秀の乱、永享の乱等

: 鎌倉街道「中の道」鎌倉～二子～岩淵～

地図では 二子の渡し→E 2 観福寺～真福寺(釈迦堂)～剣神社～荏田郷赤田堀之内～E 5 西八朔杉山神社～ほうたい寺～十日市場～三保→鎌倉

このほか保木～蔵敷～大道渡し

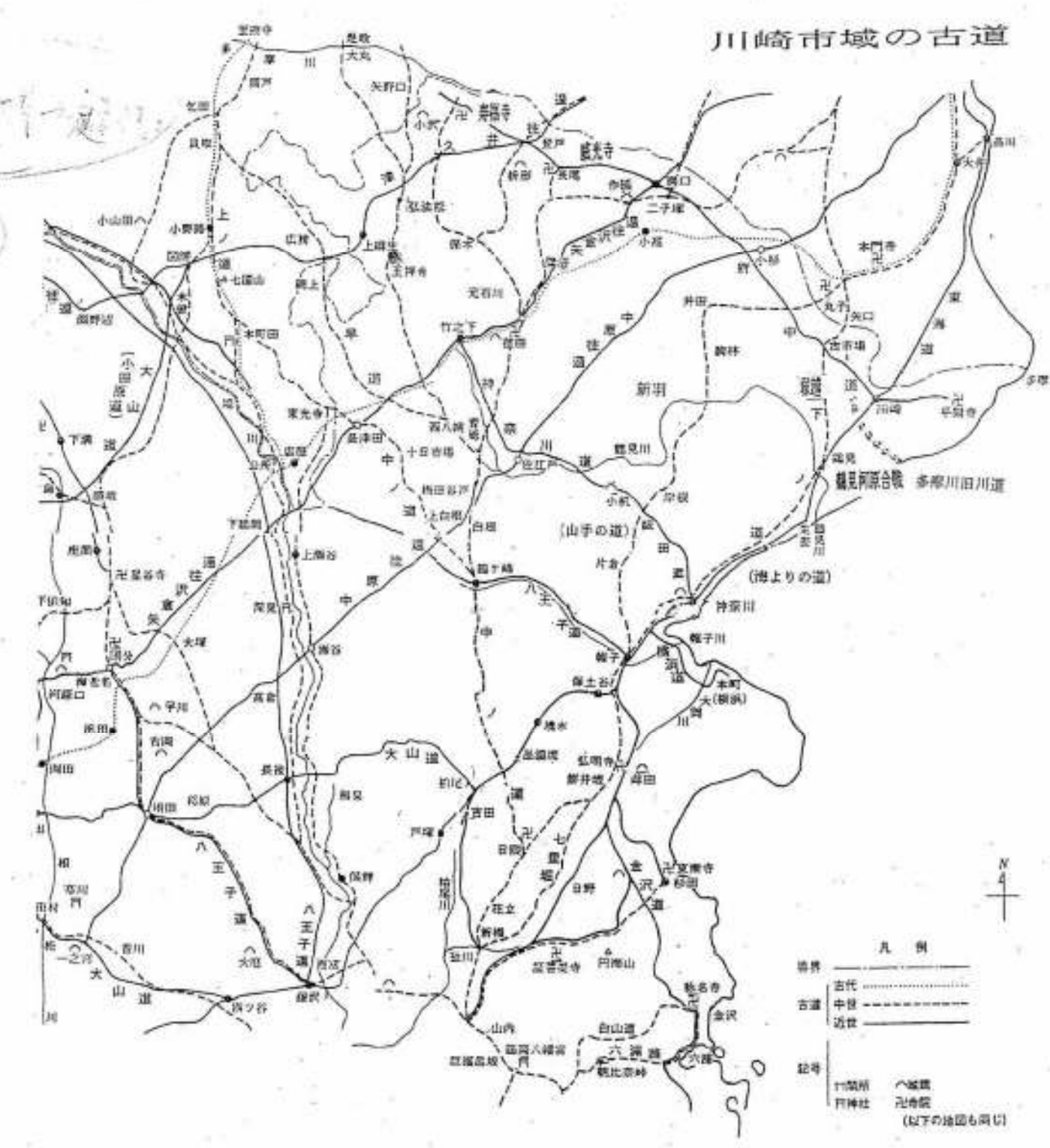
高石～三枚橋～小沢～矢野口渡し

など複数のルートがある。蜘蛛の巣状態→なぜ複数か?

: 古東海道 平塚方面～内陸部～丸子～

地図では N 1 大畑～N 2 無量寺 おおよそ中原街道と重なる

: 鎌倉街道「下の道」鎌倉～神奈川～矢口(平間)～池上～湾岸に房総・常陸



阿部正道「かながわの古道」に加筆・修正
 出典 中西望介「川崎市域の中世の古道について」川崎市文化財調査集録42
 2006年

第1図 川崎市域の古道

九 正平七年(一三五二)一月八日、足利尊氏は保寧寺領麻生郷
内古邸ならびに堀内に禁制を下した。

〔將軍親類禁制高〕
〔花押〕

○寶珠庵文書

保寧寺

右、於寺領武藏國郡筑野麻生郷内^①開堀内^②、軍勢以下甲乙人等
不可^③致亂入^④、若令^⑤違犯者、可^⑥處^⑦罪科之狀如件。

正平七年正月八日

〔註〕正平中期以降にあらわれた尊氏、自己の名譽を尊書体で書いた場合を
尊書といひ、尊書をさらに判読できない程度に図案化されると花押と呼
ばれた。①古文書形式の一。宛・察令などを諸人に告知するため禁止的
命令を載せたもの。②前出資料一注②参照。③前出資料一注③参照。④
身分より下に位置づけられた人々。種人・地下人・凡下の者。⑤亂入
に押し入り無法な行為をすること。例えは兵糧米などの略奪。⑥前朝年
号である。尊氏は直義を討つため南朝と講和(名目的に帰朝)したので
正平の年号を用いた。

〔解説〕室町幕府の政務を総轄する足利直義と実兄尊氏の執事高師
直の対立から尊氏・義隆と直義・直冬との対立に発展しこれに諸國の
守護が加わって十数年にわたる全国的な動乱となった。これを親応
の擾乱という。一時の和平の後京都を出奔した直義は親応二年(一
三五二)十一月十五日上杉憲朝のいる鎌倉に到着した。これに対し
尊氏は、急遽南朝と講和し東下した。市内近隣でも尊氏方の八文字

一揆の一員高師経澄は、直義党の立籠る小沢城(川崎市多摩区)を
同年十二月二十日に焼払っている。この城構は当然二キロ西方にあ
る麻生郷に及んだであろう。兵糧米の略奪などあったかもしれない。
尊氏は相模の早河尻で直義軍を破って、文和元(正平七)正月五日
に鎌倉に入り直義を降した。この文書はその三日後に出版されている。
まだ戦乱の余波があったのかもしれない。直義は二十六日に毒殺さ
れた。親応の擾乱はこれで終結したのではなく、直冬党(尊氏の庶
子で直義の養子)、尊氏党、南朝と天下三分して三巴の戦乱が続く。
○参照①『神奈川県史』通中編一巻 ②同資料編(四一三二)「高
師経澄軍忠状」 ③佐藤進一著『南北朝の動乱』(中央公論社)「日本
の歴史」9)

出典 中西望介 横浜市緑区史資料編2

*鎌倉道の名称は 江戸時代のもの 鎌倉時代は→「奥大道」「武蔵大路」「下の
道」「中の道」「上の道」

*鎌倉街道の研究と方法

- 江戸時代後期 「新編武蔵風土記稿」の編纂、各種の随筆、名所案内
- 高橋源一郎 「武蔵野歴史地理」 地形に刻まれた古道を記録
- 中山毎吉 「鎌倉街道下道」の研究 皇国史観全盛時代 史跡を忠実に踏査
- 戸倉英太郎 「古道のほとり」 昭和30年代に横浜市鶴見川流域を踏査
- 阿部正直 「かながわの古道」 文献史料・史跡を歴史地理学的方法で整理
- 金石文の活用 実証主義と実地踏査・・・エピソード
- 芳賀善治郎 「鎌倉街道」

：文化庁「歴史の道」保存・記録の作業 各自治体が歴史の道を記録
→阿部正直の方法を基礎に 発掘調査や考古学の成果 航空写真

*道を調査するときの「おもしろさ」と「こわさ」

- 伝承の重要性と危険性→何らかの歴史的事実の反映→それを読み解く
- 道、地名、道標は動く→地形は変わる・道は複数である→渡河点はどこだ
- 広い範囲を歩くことの必要性(武蔵・相模国)→実地踏査 現在も調査中
- 平地より丘陵が早い →腰(根)川筋の道 緩やか

史料の関連性を見つける
地図に落として確認する

※史跡を調査者のシナリオで結びつけてしまう・・・危険性

1. いくさの道

- ①麻生郷という地名・・・中世以来の地名 →2 付近
- ②スリコバチという字名・・・小沢原へつながる→2 0
- このほか 枳形
井出の沢古戦場
瀬谷原古戦場 分梅河原古戦場

2. 交易の道

- ③岡上 文永 年銘板碑・・・緑泥片岩 →8
- ④早野上原 瀬戸四耳壺・・・ →3
- ⑤能ヶ谷の中世銭 →1 1
- ⑥三輪沢山城の焼き米 →6
- このほか佐江戸 無量寺 伝猿渡内匠五輪塔

3. 信仰の道

- ⑦王禅寺・東光院 ... 印融等の真言僧→1・7
- ⑧弘法の松という地名 ... →1 郡境
- ⑨真光寺という地名・・・寺院中世以来の地名 →2 1 天台僧長弁「私案抄」
- 万福寺・寺家 →4・2 0
- ⑩禅宗系の修廣寺 日蓮宗寺院の存在 熊野神社

まとめ

新田義宗注進狀案高 〇國大曆正平七年三月四日

注進

今月十五日、於上州揚義兵、同十六日、對治國中凶徒、同日打越武州、打越當國凶徒、同十八日、攻入鎌倉候之處、尊氏已下凶徒已沒落、稱稱武州狩野河候之間、今日、發向彼方仕候、決進進候者、重可注進候、以此旨被加御詞、可有洩御被疑候、義宗恐惶謹言、

閏二月十九日

武藏守義宗

進上 御奉行所

出典 神奈川県史料 古八甲セヨ

高麗彦四郎経澄申軍忠事

右去閏二月十七日、將軍家御発向之間、自鎌倉令供奉

一同十九日、自谷口御陣、屬于薬師寺加賀權守入道手、同日、於人見原致敵々合戦、通裏訖、此等次第、鬼彦彈正左衛門尉、洪江左衛門太郎、於同時合戦、令見知也、

一同廿八日於高麗原、為執事御手、於東手崎最初合戦致戦、若党原七郎手負、此等次第、同部彈正左衛門尉、鬼彦左近將監、令見知候訖、仍軍忠次第如件

正平七年三月日

「承了(花押)」

〔注〕 ①高麗彦四郎経澄…史料54注①参照。②將軍家…足利尊氏。なお『太平記』では尊氏の鎌倉出発を十六日としているが『朝岡社務記録』や他の軍忠状も十七日としている。③谷口…稲城市矢野口。④薬師寺加賀權守入道…史料54注④参照。⑤人見原…府中から小金井市にかけて。⑥鬼彦彈正左衛門尉…鬼彦氏は武蔵七党のうち野与党の一族と伝えられる。現在の埼玉県白岡町が鬼彦郷であり、そこを本拠とした武士。⑦洪江左衛門太郎…法江氏は野与党の一族か。現在の埼玉県岩槻市本町のあたりが洪江郷であり、そこを本拠とした武士か。⑧高麗原…現在の埼玉県日高市。⑨執事…この時期の尊氏の執事である「木頼重」。⑩同部彈正左衛門尉…埼玉県岡部町の武士か。⑪鬼彦左近將監…⑫の彈正左衛門尉と同族か。

〔解説〕 直義は観応三年二月二十六日鎌倉で死ぬが、閏二月に南朝方の新田義宗・義興兄弟は上野で兵士鎌倉へ向う。尊氏は十七日に鎌倉を出て十九日には矢野口に陣をおく。高麗経澄は鎌倉から尊氏に従い、矢野口の陣、二十日に人見原、二十八日に高麗原と進出した。

一今年正月一日、馳参伊豆国府、至于鎌倉御共仕畢、

右、軍忠之次第如斯

正平七年正月 日

「承候了(花押)」

正平六年(観応二年、一三五二)

十二月二十日

足利尊氏方の高麗経澄、足利直義方の小沢城を焼き払う。

54 高麗経澄軍忠状

(町田文書)

高麗彦四郎経澄軍忠事

去年八月、下給鎌倉殿御教書、馳越下野国宇都宮、

致忠節畢、

一薬師寺加賀守入道宇都宮下向之間、遠対面、可令誅伐上

樞民部大輔之由、条々致談合畢、

一同十二月廿七日、於鬼彦揚御旗畢、

一同十八日、自鬼彦打立、荷中殿向之処、同十九日於羽淵

合戦時、難波田九郎三郎以下凶徒等打捕候畢、

一同夜於阿須垣原取陣之処、御敵言江新左衛門尉寄來問、

致敵々合戦、薬師寺中務丞令見知畢、

一同廿日、押寄符中、追散御敵等、燒払小沢城畢、

一同廿九日、於足柄山道落御敵等畢、

〔注〕 ①高麗彦四郎経澄…埼玉県日高市新堀付近の武士。武蔵七党のうち丹党。②鎌倉殿…室町時代は鎌倉府の長。鎌倉公方。『大日本史料』では足利義隆として、義隆はすでに二年前に鎌倉をはなれ上洛して幕政を執っている。その義隆にかわって鎌倉に来た足利基氏か、または当時「鎌倉大納言」と呼ばれていた足利尊氏の可能性が高い。『日野市史』は尊氏としている。③御教書…「みぎょうしよ」または「みきょうじよ」とよみ本来は三位以上の人物の命令を家司が承けて出した奉書形式の文書。鎌倉幕府では將軍の意を執権・通書が受けて出す文書。室町幕府では將軍みずから差出人となる直儀を御判御教書という。④薬師寺加賀守入道…薬師寺公義、次郎左衛門尉。加賀權守入道元可。武藏守で守護でもあった高麗彦の守護代。歌人としても名をなした。出身には二説あり、下野国守護小山氏の庶流で下野国薬師寺を名とする家族という説と、橋姓で鎌倉末期に九条家領津田田莊地頭となった薬師寺貞義と同族とする説。⑤上樞民部大輔…上杉憲朝。憲朝の子。山上内杉の祖。関東執事。民部大輔。上野・越後両国守護。直義方として尊氏と戦う。後に畠山清茂後、鎌倉公方の足利基氏にむかえられて再び関東官領となる。⑥鬼彦…埼玉県白岡町。

出典 神奈川県史料 古八甲セヨ

正平六年(観応二年) 二つの年号の表記 二つの王朝に分裂

年号は王朝が定める。「不俱滅天」

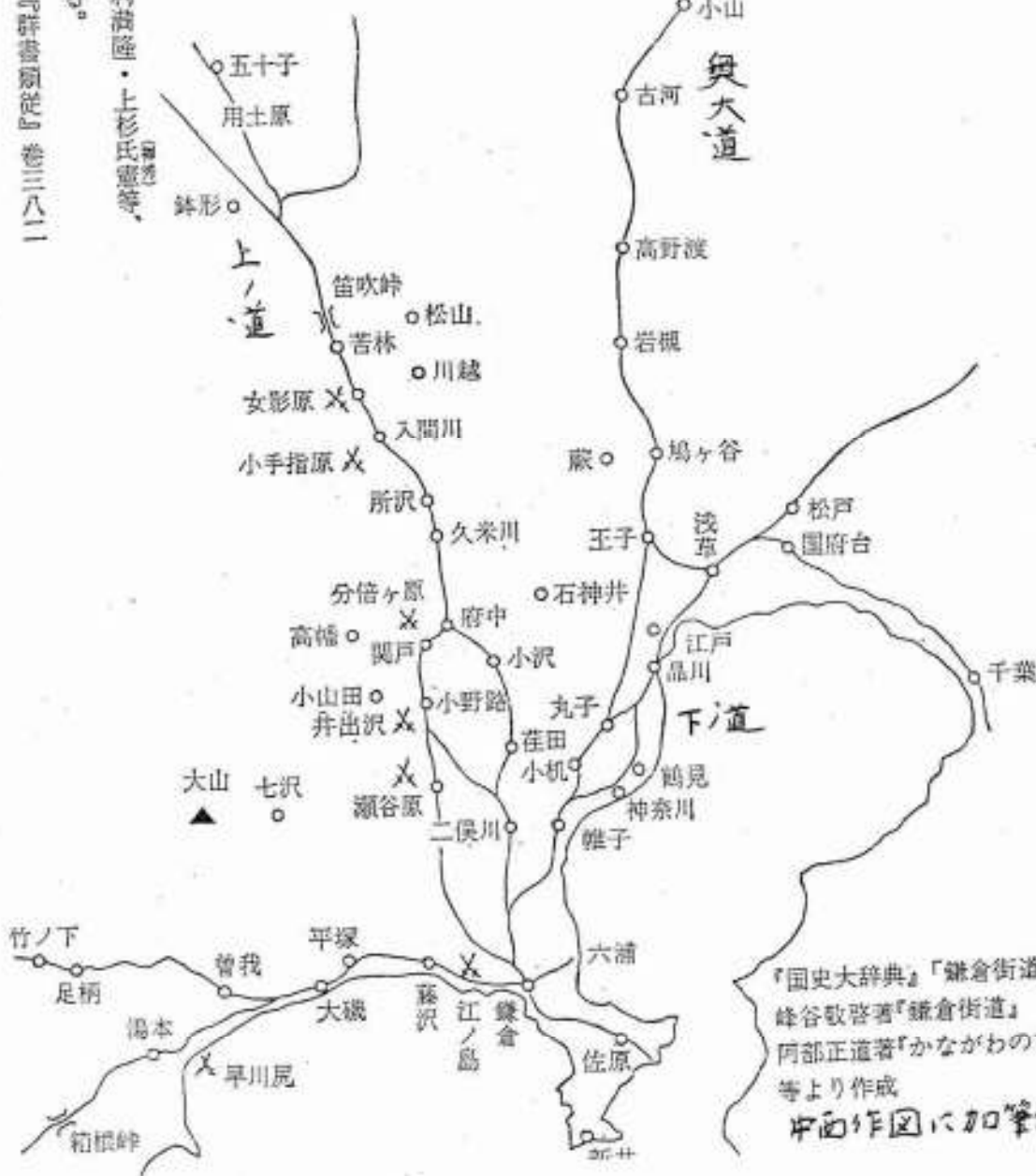
高麗彦四郎経澄 埼玉県日高市新堀付近の武士。系譜については諸説がある。

- 1, 武蔵七党のうち丹党。(『稲城市史』資料編) 典拠は武蔵七党系図
- 2, 平姓高麗氏説。(『日野市史』通史編) 典拠は 彦根城博物館保管彦根藩井伊家中科 高麗中経経澄并写

同左

三〇 応永二十四年(二四一七)一月、足利満隆・上杉氏憲等、
武蔵国世谷原で武州南一揆等と合戦する。
〔鎌倉大草紙〕
(前略)

○『群書類従』卷三二二



『国史大辞典』「鎌倉街道」
峰谷敬啓著『鎌倉街道』
阿部正道著『かながわの古道』
等より作成
中西作図に加筆修正

去程に禪秀は千葉・小山・佐竹・長瀬・三浦・芦名の兵三百餘騎
を足柄山越入江の庄の北の山の下に陣を取る間、持氏は今川勢を先
登として入江山の西に陣を取給ふ。今川勢夜討して禪秀敗軍箱根水
呑に陣を取。今川勢三嶋に陣をとり、先陣は葛山・同荒河治部大
輔・大森式部大輔・今川門族瀨名陸奥守、足柄を越て曾我中村を攻
めとし、小田原に陣を取。朝比奈・三浦・北條・小島、箱根山をこ
え。伊豆山衆徒と并土肥・土屋・中村・岡崎を攻めとし、同小田原・
園府津・前川に陣を取。明れば應永廿四年正月一日鎌倉より滿隆御
所并禪秀、武州世谷原に陣を取。南一揆并江戸・豊嶋と合戦しける
が、江戸・豊嶋打負て引退きけり。然といへども上方の討手小田原
まで賣下り、味方打負るよし聞ければ、敵は負ても悦び、味方は次
第に力をおとし、同九日味方大形心替りして敵に加りしかば、持
仲・滿隆・禪秀不叶。其夜鎌倉へ没落なされ、同十日禪秀子息實
性院快拿法印の雲下御坊に籠り、滿隆御所・同持仲・右衛門佐禪秀
俗名氏憲・子息伊豫守憲方・其弟五郎憲春・實性院快拿僧都・武州
守護代兵衛助氏春を初として悉自害して失にけり。

注①『鎌倉大草紙』はこの文の前段に今川範政の回状をのせている。内容
は室町幕府の禪秀一類・滿隆・持仲通討の御教書を受けた今川範政が、
関東の諸家中に回状を發し、一旦は禪秀に味方したものに對し、あくま
でも謀叛に同心すれば、先祖代々の忠勤は消え、所領は他人に宛行われ
るとして、公方への返返りを進めている。②禪秀方に同心したのは頼朝
の下総千葉兼胤・上野岩松高純・上野那須資之、舅の甲斐武田信尚など
の姻戚。また常陸佐竹与義・小田治朝・大塚満幹・小栗満重・下野宇都

宮持綱・陸奥藤川御所足利満直・結城白河満朝・並名盛久、その他曾
我・中村・土肥・土屋等、相模の武士、鎌倉府奉公衆(直屬家臣)の木
戸範棟・二階堂・佐々木一類等である。○参照『湖山星移集』(續群
書類従)卷六〇七。
(参考資料)
〔鎌倉大日記〕
応永二十四年丁酉の条
〔足利〕
明ル酉年正月一日、滿隆上方殿御方令供奉禪秀立鎌倉。同五、於世
谷原、對南一揆江戸豊嶋人々合戦、禪秀方打勝説。
同九日合戦者、諸人心替間、禪秀被打散、其夜二鎌倉へ没落、
翌日十日於雲下御坊、滿隆殿御方禪秀以下自害云々。
(下略)

○『増補続史料大成』

出典 資料1に同じ

資料6

121 〔宗長手記〕 群書類従 卷三二二六
永正元年九月初に、鎌倉山内・勝谷内管領、
〔上杉朝景(伊勢宗瑞、信隆北条早雲)上杉朝定〕
關谷は早雲一味、河越・江戸、山内は上杉・鉢形、いつ
れも合戦すへきになりて、武蔵野にもあまるばかりなる
へし、坂東路三里ばかり、敵退に及す、味方すむにあ
らず、十余日相さへて注進あり、氏親、九月十一日敵
に進発、十三日備中守・福嶋左衛門尉、駿遠兩國の勢逐
日出陣す、同廿日、廿一・二日、早雲の陣益形漸強、敵
退くやと見えき、をひすかひ一夜野陣、明る辰刻討の朝
霧のうち、武蔵野も深山のやうに、敵味方の軍兵みえけ
るとなり、凡、雷電のことし、午刻はかり馬を入あひ、
数刻の合戦、敵討負て本陣立川に退、其夜、行方しらす、
二千余討死・討捨・生捕、馬・物の具充滿、一日一夜有
て、大将修理大夫氏親、同十月四日鎌倉まで帰陣、一兩
日逗留、豆州熱海湯治一七日、並山二・三日、陣旁休ら
れ帰国ありしなり、(前後略)
○行間の書き入れは省略した。



天台僧長弁「私案抄」関係地名、「調布資村集」小川信
○天台宗の広がり —— 双摩川流域

出典 資料1に同じ 中西作図
○真言宗の広がり —— 鷲見川流域
14世紀後半～15世紀後半

△日蓮宗 池上本門寺など 湾岸交通要衝
△時宗 藤沢・原当麻、寺が残りくい

四四 応安六年(一三三三)以前から文明六年(一四七四)頃にかけて真言宗醍醐三寶院伝法をうけた僧等海・印融らは恩田・鳥山・王禪寺・岡上・新羽・榎下等の地の寺に居住する。
○『續群書類從』卷八四三(三寶院伝法血脈)
(前略)

第卅一代等海上人德行并附法弟子三人
等海上人律家之碩徳。祕宗之名匠也。初任金澤稻名寺。後居恩田延命院。種々奇特有驗之人也。
應安六年癸丑九月三日入滅。端座正念。向本尊手結影印。口誦祕明。心住三昧也。

義印于時アサリ法印。號鳥山楊柳院。
鎮海于時アサリ法印。號王禪寺花嚴院。
長海岡上。
第卅一代義印法印德行并附法弟子一人
義印法印事相業承披群。而修行道徳施世。開鳥山楊柳院安置觀自在尊。應永七年庚辰四月廿九日。

義繼于時アサリ。大石石見守也。初傳受義印法印。後重受鎮海法印。
應永四年丁丑十二月十三日火難。於鳥山楊柳院受之。色衆十二口。
第卅二代義繼法印德行并附法弟子三人
義繼法印大石石見守也。義印入室寫瓶弟子也。菩提院聲明之名徳也。初讓得楊柳院。後移住三會寺。自門興起法流繁榮依此時

也。寶徳元年己巳十一月五日入滅。七十。

賢繼于時アサリ大僧都。年十九。

祐尊于時アサリ大僧都法印。中葉南願寺。

右兩人應永十八年十一月十五日於鳥山三會寺受之。色衆十二口。

永享

於鳥山三會寺受之。色衆十六口。庭儀。

第卅三代賢繼法印德行并附法弟子二人

賢繼法印義繼法印入室寫瓶弟子也。於小澤願範法印之室習教相十六年也。眞俗繁昌之名人。事故弘通之碩徳也。初建立羽澤觀音寺居住。後再興鳥山三會寺移住。寛正六年乙酉四月廿五日入滅七十。

鎮繼 本名鎮繁。鳥山三會寺住持。長享二年戊申正月一日六十八。端坐正念結定印入滅。

享徳四年乙亥三月十日於武州小机保久樂郷羽澤村觀音寺受之。無作法。

印融于時アサリ大僧都

長祿四年庚辰十月四日于寓。於武州小机保鳥山三會寺受之。色衆十六口。

圓融法印印融。鎮有法印。祐尊法印。賢榮法印。鎮繼僧都。教。鎮順僧都。教。

第卅四代印融法印德行并附法弟子

予自幼少之古至老長之今。染心於事教之二相。懸思於梵漢之兩文。染筆書寫之業無懈。稽古鑽仰之志不倦。雖然天性愚鈍之故

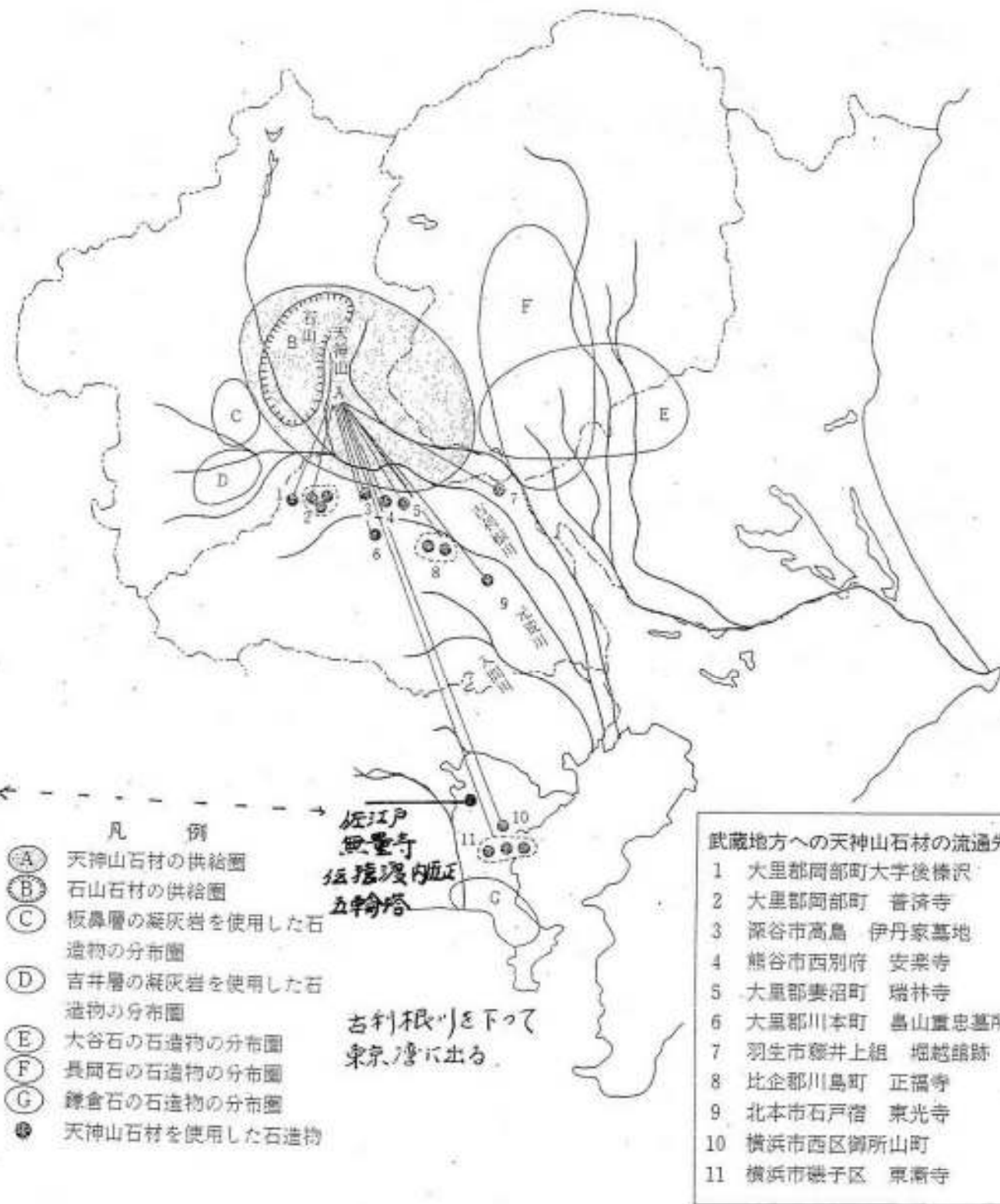
未達本懷賢利之伍。奉直賢繼法印。○長祿三年己卯十二月十五日受許可之密印。○同四年庚辰傳傳法之職位。翌年諸尊法傳受之。○寛正二年辛巳六月一日。傳秘密灌頂。○一某年白紙抄。玄秘抄。厚双紙。奥疏等傳受之。○同四年癸未二月十六日。受秘密灌頂。○同五年甲申十二月十五日。傳秘密灌頂。此時當流不共嫡々相承大事等受之。誠以師恩慈海經多劫。難報難酬者也。

祐榮于時宗。太田東福寺。
應仁三年己丑二月廿七日於太田東福寺授之。重受之間有深入寺。高野山二難堂。
文明二年庚寅正月十一日於高野山二階堂授之。無作法。以後日重々灌頂示之了。

融惠于時律師。大僧都法印。金澤光禪寺住持。文明十四年壬寅閏七月十六日入滅。四十三。
融弁于時律師。僧都法印。同寺住持。
右兩人
文明六年甲午十一月十八日。於武州小机保護下觀護寺授之。重受之間無色衆。以後後年重々灌頂諸尊法傳傳法流々不共大事等悉以授之了。
宣嚴
有譽系仙房
融契智德房
右兩人文明六年甲子十二月十三日。於觀護寺授之。重受無作法。以後々年重灌頂等授之。

交易・物流と道
— 陶磁器・五輪塔・米・銭・板碑 —

図3 天神山石材の流通とその他凝灰岩石材の分布



- 凡例
- (A) 天神山石材の供給圏
 - (B) 石山石材の供給圏
 - (C) 板鼻層の凝灰岩を使用した石造物の分布圏
 - (D) 吉井層の凝灰岩を使用した石造物の分布圏
 - (E) 大谷石の石造物の分布圏
 - (F) 長岡石の石造物の分布圏
 - (G) 鎌倉石の石造物の分布圏
 - 天神山石材を使用した石造物

- 武蔵地方への天神山石材の流通先
- 1 大里郡岡部町 大字後橋沢
 - 2 大里郡岡部町 善濟寺
 - 3 深谷市高島 伊丹家墓地
 - 4 熊谷市西別府 安楽寺
 - 5 大里郡妻沼町 瑞林寺
 - 6 大里郡川本町 島山重忠墓所
 - 7 羽生市藤井上組 堀越館跡
 - 8 比企郡川島町 正福寺
 - 9 北本市石戸沼 東光寺
 - 10 横浜市西区御所山町
 - 11 横浜市磯子区 東漸寺

出典 国井洋子 『中世東国における造塔・造仏用石材の層地とその供給圏』
歴史学研究 702 加筆修正
1997年 中世東国における造塔・造仏用石材の産地とその供給圏 (国井)

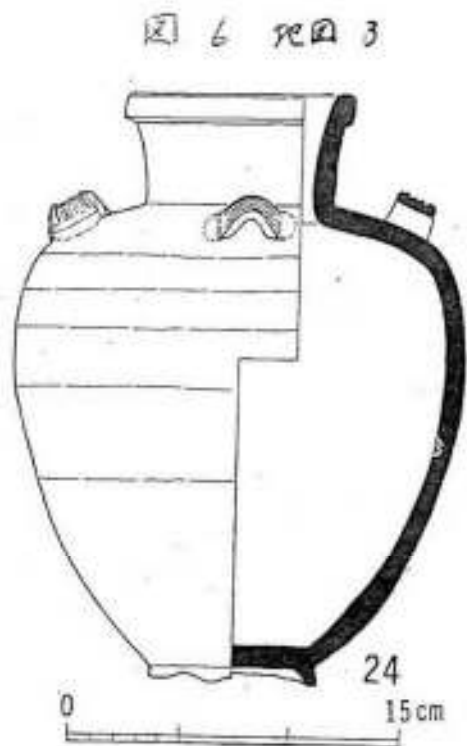


鎌倉～室町期
墓
破碑 12基
文永七年(1270)
建治三年(1276)
正中二年(1325)
応安二年(1375)
応安年間以降

渥美焼
13世紀代

第26図 小金松出土壺

横浜市青葉区寺家 小金松

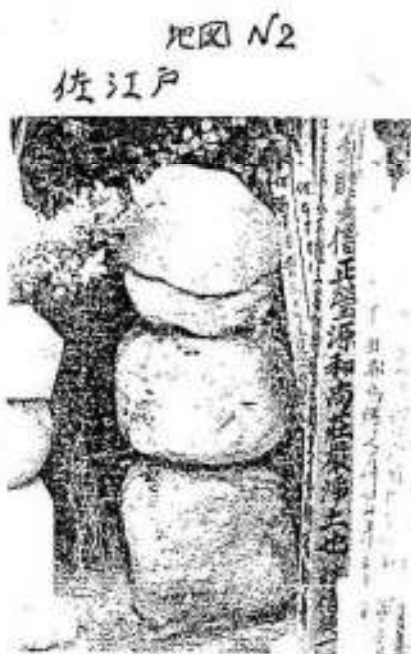
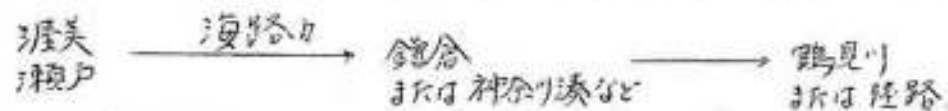


中世の墓
破碑を伴う

津波戸田馬場
13世紀後半

第27図 上ノ原出土四耳壺
川崎市麻生区早野

出典 坂本 章 『港北の中世陶器』 『調査研究集録』 第6冊 1989年



佐江戸
天神山
陸上交通
(馬)

猿渡内匠正五輪塔
↓
東新所境内の
青白磁の合子

二四五 北条氏照印判状 広務町 吉川泰兵所蔵

〔南次〕
〔南次〕 様当 先日以御印判被仰 〇於折鎌者、先御
印判 〇五日、当郷之馬共悉相集、三輪へ
罷 〇筑前手代前より請取、江之 〇造可相届候、
大事之御成米、御文言 〇趣於相背者、当郷へ可被懸憑
銭旨、 〇仰出者也、仍如件、

〔南次〕
〔南次〕 二月廿六日
〔南次〕
〔南次〕

百姓中

某年二月二十六日、北条氏照は、広務郷百姓に対し、同郷の馬をすべて三輪に集めて被米を運搬すべき旨を命じ、これに背くものがあるれば、同郷に過儀を懸ける旨を触れた。

この文書は上端が焼損している。

出典 町田市史 村集 4 小川信編

交易・物流と道

能ヶ谷出土銭 地図 11

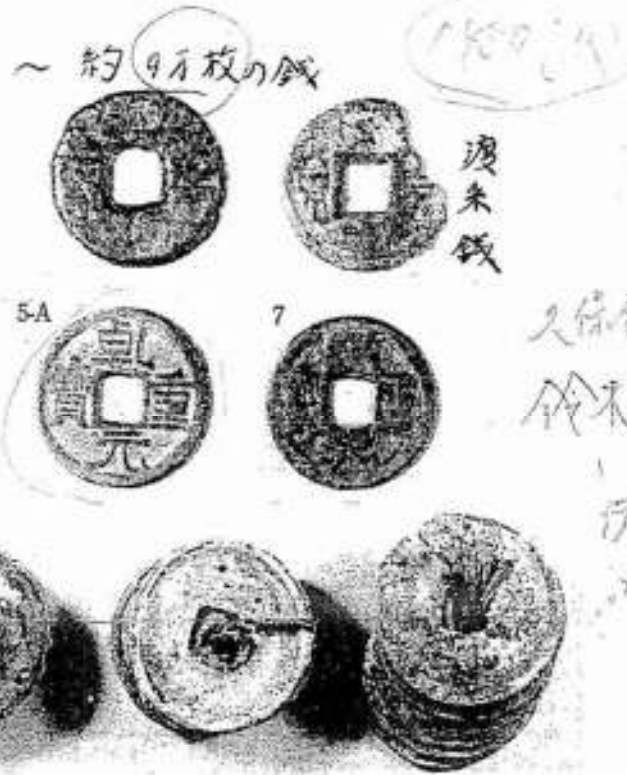
34.1 Kg の銭塊と 81.831 枚の銭

給桶
絡縄

15世紀前半~中期 頃に埋納される



能ヶ谷出土銭調査報告書
1996年



図版13 絡縄 さし

板碑
地図 8.

阿部院一尊
川崎市域最古の板碑
岡上 文永四年(一二六七) 153 x 42



地図 5

鴨志田念佛堂 建長六年板碑(一二五五)
阿部院一尊 建長六年板碑(一二五五)
阿部院一尊 建長六年板碑(一二五五)



石工・僧侶など造立者の交流を
109 指示する。
x 54

この地域に初発期の板碑が集中する。
鴨志田 寛元二年(一二二四) 三
同右 建長六年(一二五五) 一
小松 文永七年(一二六七) 一
岡上 文永四年(一二六七) 一

- (鎌倉街道上の道)
- A 1 関戸渡し (分梅河原古戦場・板碑)
- A 2 霞ヶ関 (鎌倉街道・建物址)
- A 3 貝取 (板碑)
- A 4 結集板碑
- A 5 小野路 (小野神社梵鐘)
- A 6 七国山 (井戸跡)
- A 7 宏善寺 (日蓮宗・板碑)
- A 8 井出の沢古戦場跡

- 1 王禅寺 (真言宗)
- 2 東柿生小学校遺跡 (中世陶器)
- 3 早野上原瀬戸四耳壺 (中世陶器・板碑)
- 4 寺家小金松蔵骨器 (中世陶器・板碑)
- 5 鴨志田念仏堂 (中世陶器・板碑)
- 6 三輪沢山城跡 (焼き米)
- 7 岡上東光院 (真言宗)
- 8 岡上文永板碑
- 9 岡上伝鎌倉道
- 10 岡上神社

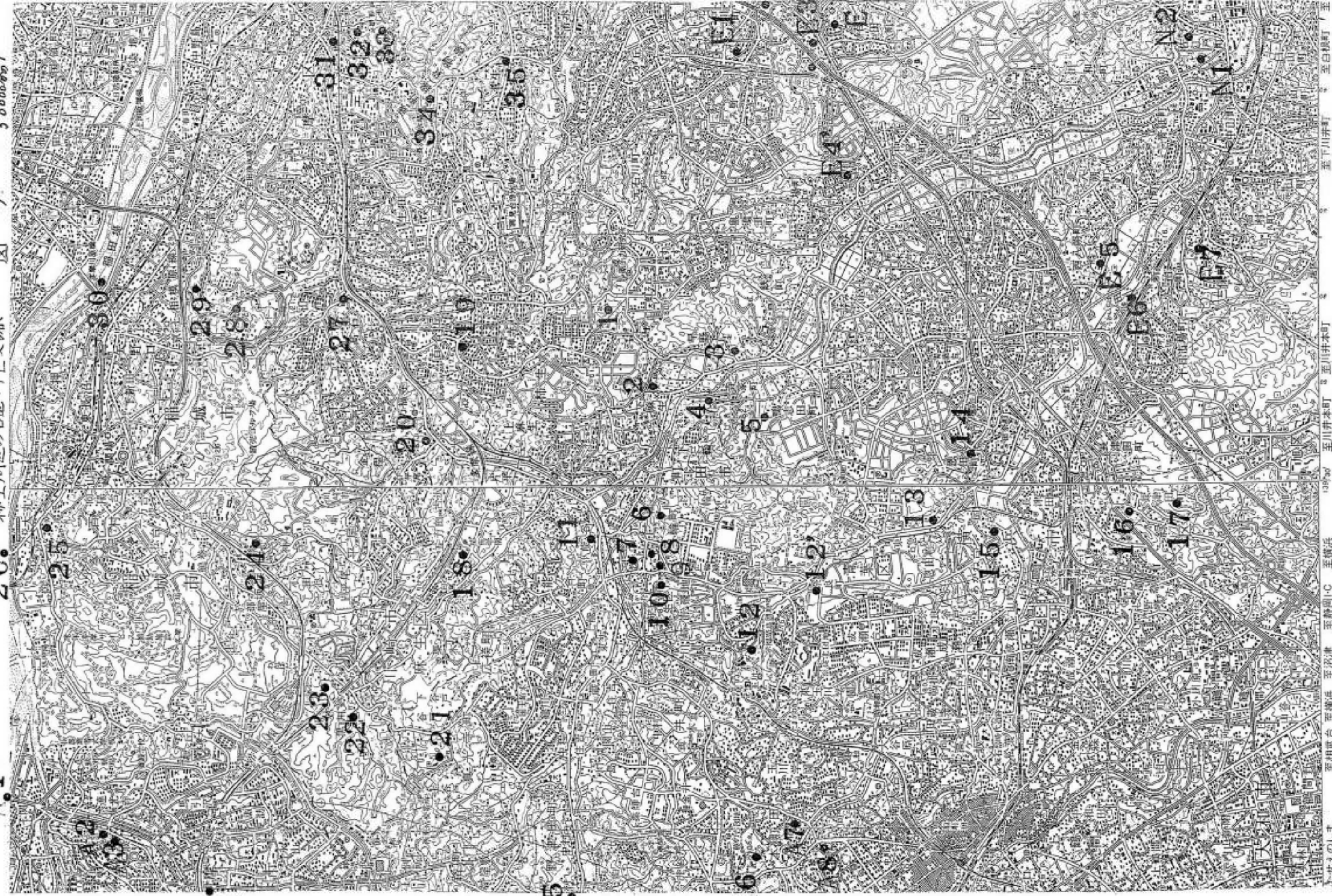
- 1 1 能ヶ谷中世銭出土地点
- 1 2 西谷 本山池 (中世陶器・板碑)
- 1 2 請地だいやま遺跡
- 1 3 徳恩寺 (真言宗)
- 1 4 苗万坂 (中世陶器・万年庵寺・梵鐘)
- 1 5 恩田堀之内 (城館跡・中世陶器)
- 1 6 長津田大林寺 (板碑)
- 1 7 長津田わきの谷戸 (中世陶器・板碑)
- 1 8 とうろんば (字名)
- 1 9 弘法の松 (郡境)
- 2 0 スルコバチ (字名)
- 2 1 真光寺飯守神社 (大國玉神社関連)
- 2 2 黒川汁守神社 (同上)
- 2 3 西光寺
- 2 4 坂浜高勝寺 (真言宗)
- 2 5 大丸城跡 (消滅)
- 2 6 是政渡し
- 2 7 三味橋
- 2 8 寿福寺 (大般若経・深大寺僧長弁銘)
- 2 9 小沢城跡 (南北朝~戦国期)

- 3 0 矢野口の渡し
- 3 1 大道渡しあと
- 3 2 廣福寺 (伝稲毛重成墓) (付近稲目郷)
- 3 3 枳形城跡 (戦国期)
- 3 4 伝鎌倉道 (館内陸路)
- 3 5 菅生神社 (付近に板碑)

- (鎌倉街道中の道)
- E 1 西勝寺 (応長銘板碑)
- E 2 観福寺 (板碑・道跡)
- E 3 在田城跡
- E 4 真福寺釈迦堂 (律宗の影響・釈迦如来像)
- E 4、月見塚 (付近に寺下遺跡) 中世墓
- E 5 西八朔杉山神社 (式内社力)
- E 6 ほうたい寺 (五輪塔・横穴)
- E 旧城寺 (榎下城跡・中世陶器)

- (古東海道)
- N 1 大畑 (中世陶器)
- N 2 無量寺 (中世陶器・五輪塔)
(付近に藪根不動原遺跡)

26. 柿生周辺の古道・中世史跡 図 7 500000/1



水素手

たせえのしま 至相武台 至横浜 至沼津 至静岡・C 至横浜 129°00' 至川井本町 至川井本町 至下川井町 至白根町 1